

■千葉クニヲさん



ちば・くにを
 ■誕生日_大正元年10月24日
 ■住所_真柴
 ■撮影日_10月24日
 ■場所_特養老人ホーム関生園

きれいな歌声が自慢

クニヲさんは、21歳で寅之助さんと結婚。子4人、孫8人、ひ孫9人、やしやご3人がいます。若い頃は、まゆから機織りをしたり、編み物をしたりと器用だったクニヲさん。歌声がよいと評判で、歌うことが好きでした。無理をせず、マイペースに過ごすことが長寿の秘けつです。



重ねた歲月刻んだ年輪

百年目の寿

百歳の誕生日を迎えた
 3人を紹介します。
 対象者は大正元年生まれです。

■千葉さかゑさん



ちば・さかゑ
 ■誕生日_大正元年11月1日
 ■住所_弥栄
 ■撮影日_11月3日
 ■場所_千葉さん宅

孫たちとの会話が楽しみ

さかゑさんは、18歳で實さんと結婚。子7人、孫13人、ひ孫13人がいます。農業を営む合間に、家族や近所の人の丹前などを縫っていました。躍りが好きで、よく踊り歩いていました。今は、孫たちが元気に話を聞かせてくれることを楽しみにしています。

■菊池チヨノさん



きくち・ちよの
 ■誕生日_大正元年10月19日
 ■住所_大東町鳥海
 ■撮影日_10月21日
 ■場所_グリーンパレス大東

長年欠かさず日記をつける

チヨノさんは、19歳で義助さんと結婚。子6人、孫21人、ひ孫30人、やしやご1人がいます。農業を専門に従事してきました。気が向いたときには本を読み、日記を書くことは長年の日課になっています。好き嫌いせず、何でも食べることが長寿の秘けつです。



望ましいみとりを市民と一緒に考える

藤沢・縄文ホールで「地域医療市民フォーラム」

「地域医療市民フォーラム」は11月17日、藤沢文化センター「縄文ホール」で開かれた。「地域での生活を支える医療と介護」をテーマに地域住民や医療・福祉関係者約400人が医療・介護の連携や望ましいみとりについて考えた。

基調講演では、穂波の郷クリニック(宮城県大崎市)の三浦正悦院長が「生きる力を育むコミュニティ緩和ケア」と題し、患者や家族の心と体に寄り添う在宅緩和ケア支援の実践事例や効果を説明。「病気の苦しみを取り除くだけでなく、生活を充実させることが必要」と訴えた。コミュニティ緩和ケアの事例報告では、同クリニック併設の「緩和ケア支援センターはるか」の大石春美センター長がステージに上がった。在宅で家族と過ごし、安らかに永眠した3人の事例を映像と音楽を織り交ぜて紹介。客席には涙する参加者も。

続いて、千厩病院へのボランティア活動が続いている「朝顔のたね-千厩病院を守り隊」(遠藤育子会長)が寸劇「おらだちにもできる

ごと」を披露した。県立病院に勤務する医師の厳しい勤務状況を紹介し、その負担を軽減するために「コンビニ受診」を減らすこと、かかりつけ医を持つことや日常から健康づくりをすることなどの重要性をコミカルな演技で分かりやすく見せた。

「医療と介護の連携による望ましいみとりとは」をテーマに行われたパネルディスカッションでは、高木史江市国保藤沢病院診療部内科長、八巻光恵ふじさわ訪問看護ステーション看護師長、藤野久美特別養護老人ホーム真生園介護副主任がそれぞれ施設での「みとり」に関する状況を報告し、意見を交わした。

コーディネーターの齋藤昭彦市保健福祉部長は「医療を取り巻く状況が厳しい中で医療、看護、介護の関係者だけではなく、地域住民も一緒に問題乗り越えていくことが必要」と総括した。来場者は、自分らしい最期を迎えられる場所やサポート体制の在り方について考えを深めた。



1) 映像と音楽を織り交ぜ事例を紹介した緩和ケア支援センターはるかの大石春美所長 / 2) 関係者や一般市民など約400人が参加 / 3) 基調講演した穂波の郷クリニックの三浦正悦院長 / 4) 寸劇で県立病院の現状などを伝えた「朝顔のたね-千厩病院を守り隊」のメンバー / 5) 望ましいみとりの在り方について考えたパネルディスカッション。3人のパネラーがみとりについて意見を交わした

緩和ケア…完治を望めない患者に、生命の持続よりも、身体的痛みや精神的苦痛を取り除くことに重点をおいた介護・看護。末期がん患者などに対して行われる